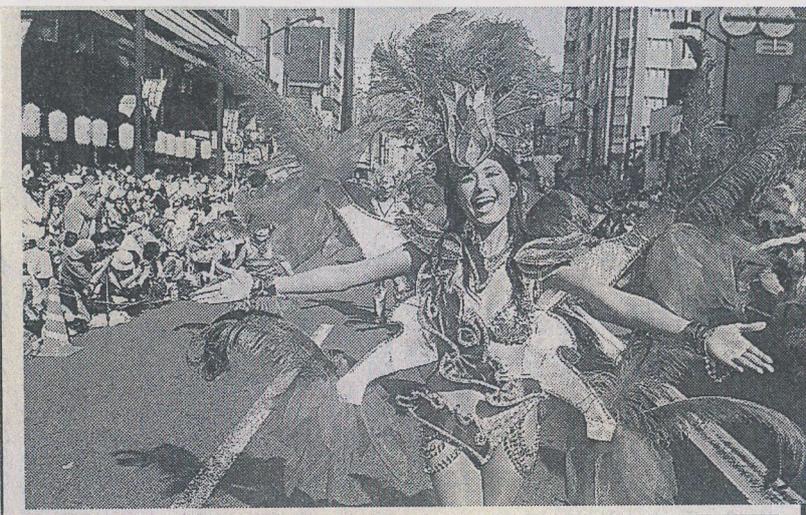


暑い、サンバも熱い  
夏の風物詩、「浅草サンバカーニバル」が25日、東京・浅草



の雷門通りなどで行われ、沿道には約49万5千人の見物客が詰めかけた。写真、越田省吾撮影。東京の最高気温は32.9度。

晴天のもとで、赤や緑、青などの大きな羽根のついた衣装をまとったダンサーが、サンバのリズムに合わせて、歌い踊った。

朝 8/26



東京の夏の終わりを彩るイベントが25日、都内2か所で開かれた。最高気温が30度を超える厳しい残暑とともに、踊り手と観客の熱気が街を包んだ。  
東京都杉並区のJR高円寺駅

残暑なんの

ねの奏であるお囃子に合わせ「ヤットサー、ヤットサー」の掛け声で登場し、沿道を埋めた観客を魅了した。26日も行われる。一方、東京・浅草で開かれた「第27回浅草サンバカーニバル」(同)は同日、清水敏明撮影。パレードコンテストには約4600人のダンサーが参加し、頭や背中に色鮮やかな羽根飾りを付けたダンサーらがラテンのリズムで軽快なステップを披露すると、約50万人の観客から「格好いい」など声援があがった。

踊れ 踊れ

首都熱い



読売 8/26



歌や踊りを披露した。写真。◎：午後一時すぎから、色鮮やかな衣装と羽根飾りをまとったダンサーたちが、約八百坪の路上で次々と軽快なステップを刻むと、沿道から拍手がわき起こった。

◎：東京・下町の夏の終わりを彩る恒例行事、松田昇さん(43)は「浅草サンバカーニバル」が二十五日、東京都台東区を堪能したと笑顔。多台東区の雷門通りなどで開かれ、二十七チーム約四千五百人のダンサーがいた。